



答えは裏面に！

2013年10月12日 土

第十一回  
ホームムービーの日 in 弘前

第1部 15:30~(17:00 終了予定)  
みんなでおはなしをきこう

個人の記録である8ミリフィルムを地域で活用しているNPO法人20世紀アーカイブ仙台坂本英紀さんにお越しいただき、活動についてわかりやすくお話していただきます。

第2部 17:15~(19:00 終了予定)  
みんなでえいぞうをみよう

弘前を中心とした8ミリ・16ミリフィルムの映像を上映します。今回はサイレント映画ピアニストの柳下美恵さんをゲストに迎え、無声のフィルムは生演奏付きで上映いたします。

# Home Movie Day in HiroSaki

会場 めん房たけや (弘前市稔町10-1)

料金 入場無料

協力 NPO 法人映画保存協会 HMD 日本事務局

特別協力 NPO 法人20世紀アーカイブ仙台

企画 NPO 法人ホームムービー・センター

主催 HMD 弘前

問い合わせ 070-5473-5245 (竹森)

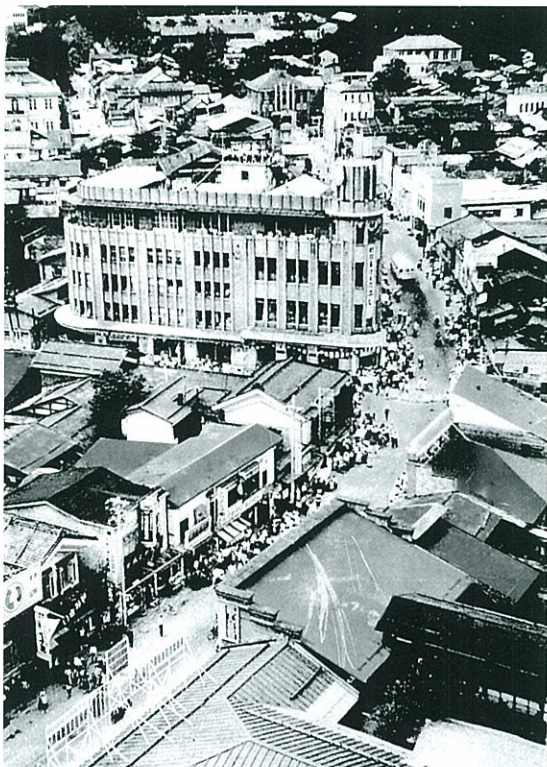
hmd.hirosaki@gmail.com

Web hmd-hirosaki.org



このイベントは弘前市市民参加型まちづくり1%システムの助成を受け実施しています。

# 映し出されるのは 眠っていた記憶が 新鮮なオドロキが



## ホームムービーの日

家庭に眠るプライベートフィルムを持ち寄って上映し、地域みんなで楽しむ世界同時開催のイベントです。過去のメディアとして忘れられつつある「フィルム」の強さや美しさを再確認し、保存の大切さを訴える日でもあります。

「ホームムービーの日」はアメリカのフィルム保存の専門家らにより 2003 年に始まりました。日本では NPO 法人映画保存協会が普及につとめています。

10 年目の 2013 年には、世界 17 ヶ国 95 会場、国内 19 会場で開催されました。

## HMD 弘前、作業公開中！

10 月 1 日より、「めん房たけや」や、弘前市民参画センターにて、フィルムのチェックや試写といった作業を公開で行います。他の人に見せるのは恥ずかしいけど、自分のフィルムに何が映っているのか確認したいという方、映写機を見たい方、ぜひ遊びにきてください。場所や時間はお問合せください。

さかもと ひでき

## 坂本英紀 NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台 理事長

1961 年生まれ。1989 年映像制作会社・クリップクラブ設立し、映像制作業務の傍ら 8 ミリフィルム映像の収集・保存、デジタル化を開始する。2009 年 NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台設立。2010 年、NPO 活動として、昭和の懐かしい写真集と映像集『クラシカルセンダイ』出版。同年「回想法レクリエーション出前講座」を開始。東日本大震災後は、被災地や仮設住宅にて「回想法・昔を語る会」、「映画上映会」など実施している。2012 年には震災写真集『3.11 キヨクのキロク』、2013 年には震災復興記念記録写真集『3.11 キヨクのキロク、そしてイマ。』を出版。

※震災直後に市民が撮影した記録写真と、同じ場所の 2 年後を見比べることができる「3.11 定点観測アーカイブ・プロジェクト ポスター展」10 月緊急開催！

やなした みえ

## 柳下美恵 サイレント映画ピアニスト

武蔵野音楽大学ピアノ専攻卒業。1995 年に朝日新聞社主催の映画生誕 100 年上映会でデビュー。国内の映画館、映画祭、大学の公開講座の他、ポローニャ復元映画祭、SEAPAVAA( 東南アジア太平洋地域視聴覚アーカイブ連合 ) 会議、ポルデノーネ無声映画祭など海外公演も多数。ホームムービーの伴奏は「ホームムービーの日」《今年的一本》上映会 in 弘前」を始めとして各地で行っている。DVD『裁かるるジャンヌ』『魔女』(紀伊國屋書店)、Blu-ray『裁かるるジャンヌ』(英 Eureka Entertainment) で伴奏を担当。新作映画の音楽も手掛け、日々映画へ愛情を傾けている。

## HMD 弘前より

HMD 弘前は 2006 年より弘前市で「ホームムービーの日」を毎年開催している団体です。ちいさな映写機をカタカタ鳴らし、県内外からご提供いただいたプライベートフィルム、いわゆるホームムービーを「あの服なつかしい」「この場所知ってる」と好き勝手おしゃべりしながらみんなで眺めるうち、個人の記録であっても、今はない昔の風景や風俗がわかる貴重な史料であることがわかってきました。弘前市ですと、ねぶた、さくらまつり、カルチャロード、巡回検診や水害の後と様々な映像が 8 ミリフィルムで残っています。これを広く知ってもらいたい、そして、もしお家にフィルムがあれば捨てないでほしい、という気持ちも出てきました。まずは懐かしい、そして見たこともない映像を体験しに「ホームムービーの日」においでください。楽しみながら上映を重ね、地域の映像が地域で保存され、地域の人たちが見たい時に気軽に見られる環境づくりができればと思っています。

表面の写真：昭和 40 年代の土手町，下土手から中土手を望む  
上の写真：昭和 30 年代の土手町，カクハ周辺（共に弘前市提供）